

小国が好きだから楽しく住みたい。
小国らしいことをやりたい。

OGUNIウィーナスの会
代表
伊津見 純子さん

大分県との県境に位置する悠木の里小国。今、ここを拠点として人の輪を広げ、楽しいイベントを次々と手懸ける独身女性だけのグループ「OGUNIウィーナスの会」が注目を集めています。

今回、お訪ねしたのは、その代表、伊津見純子さん。女性ならではの感性と軽やかなフットワークで、小国町のPRを全国へ向けて発信しています。本当にやりたいことを探して、イキイキと小国を駆ける伊津見さんにお話を伺いました。



OGUNIウィーナスの会発足のきっかけは何ですか。

伊津見 二十三年の時に熊本市から杖立に帰ってきました。当時は、若い女の子が一人で飲みに行くとか不良みたいと言われてました。でもこれじゃ若い人は帰ってこない、帰ってきたってすぐ出ていく、と思ひ、若い子が一人でも安心して暮らせる場所を目標に喫茶店を始めました。

町のイベントにも参加しました。参加するうちに私自身は小国が楽しくなってきたんです。でも、周りの女の子達は、「私達も何かやってみないけど、何をしたらいいかわからない」と言う。その声を聞いて、「じゃ、とにかく女の子だけで集まってみようじゃないか」と。町中の独身の女性をリストアップして、去年の三月に「OGUNIウィーナスの会」のネーミングでパーティーを開きました。その時の参加者に呼びかけて答えてくれたのが十五人。これがきっかけで「OGUNIウィーナスの会」ができたんです。それまでは若い独身女性のグループってなかったんです。

現在の活動内容を教えてください。

伊津見 毎月一回の定例会を中心に、最初は小国町主催のイベントや、木魂館のお手伝いをしていました。そのうちスキーがしたい、湯布院の劇団と交流会をやらうと、いろんな案がでてきたんです。私達は遊びが主体だから活動には自由参加。強制はしません。小国が大好きで、小国に住んでいる限りは楽しくやりたい、そういうことです。

イベントを通して若い人へ何かをつかんで欲しい

長崎をはじめ、県外のグループとの交流も盛んですね。

伊津見 今、小国が全国的に注目を集めているため、県外から多くの地域づくりグループが来られます。そして、木魂館で交流会があれば、私達も参加する。そこで友達になって、今度は向こうから呼ばれて、イベントに参加しに行くんです。相手の現場を知るのをおもしろいからですね。本当に頑張っているな、とか、そうでもないな、とか。やはり、外に出てみないと自分の町はわかりません。出ると必ず、やっぱり小国はいいなと思つて、小国のPRばかりして

帰ってきます。だからこそ、来れる方には小国の元気なところをみせないで格好悪いなと思いますね。

小国町全体の活気がバックアップしてくれてもいるんですね。

伊津見 ええ。自分達が楽しもうと始めたことではあるけれど、町が有名になったことで、同時に「ウィーナス」の名も売れはじめたといえます。それに、私達は当たり前のことやっていると思っていたのですが、田舎で、独身女性だけの会をつくっているのは珍しいそうです。「独身主義の会」とか「結婚せんつもりだろ」とか周囲から言われてますけど。それをこころまですり替えてやってこれたのも、

宮崎町長や木魂館の江藤館長のご理解とお力添えがあったからです。小さなイベントであれば、町が助成する制度がありますし、私達は小さくても小国らしいことをやっていきたい。今、町全体がそういう意味でいい変わり方をしていると思います。

今後の抱負を聞かせて下さい。

伊津見 「OGUNIウィーナスの会」を通して田舎の小国町に独身女性の地位を築けた、若い女の子の存在を認識してもらった、ということ、私は役目を果たしたなと思つています。この後、どのような形で続くかわかりませんが、次の世代にこの会をやつていつてもらいたいと考えています。そのためにはぐつ



和気あいあい。シンポジウムに続くLove Song Party



と引っぱっていきける人を育てていく必要を感じています。

一つのイベントが終わって、一人一人がやってよかったという充実感をもてたら、そこからまた何かやりたいという気になってくるでしょう。自分達が楽しくて、何かをつかめたら、それで成功したといえるんです。そういう体験をどんどん若い人にしてもらいたいと思つています。



定例会での真剣な表情。イベント成功に向けて想いが練られます。



小国町木魂館で開催したシンポジウム。今回のテーマは「恋愛論」

